

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における
課題整理状況
(第43回 全体会 資料)
2024/12/4

分冊②

【住まいに関するプロジェクトチーム】

※課題No. 下の()内は課題提出年度

・第36回全体会(令和3年6月)にてプロジェクトチームの終了を報告、承認。居住支援協議会との連携については、相談支援部会に引継ぎ。「一人暮らしガイドブック」の周知については、運営会議に引継ぎ。その他残された課題についても運営会議に引継がれることを確認。

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
100 (H29)	視覚障がいの方に区役所から送付される書類 (サービス更新のお知らせ等) について、点字印刷されたものが送付されており点字を習得されている方の大きな助けになっているが、視覚障がいの方の中には、中途障がいの方も多く、点字習得されていない方も多い。実際に中途視覚障がい者から「点字で書類を送られてきてもわからない」との相談を立て続けに2件ほど受けた。【相談】	<p>【課題】 視覚障がい者に対する札幌市からの通知について。中途視覚障がい者への対応。</p> <p>【考えられる課題解決策】 ○視覚障がい＝点字とせず、サービス申請時や手帳取得時に点字の習得について行政で確認、習得していない方へは電話やその他音声での情報提供をする。 ○SPコードがついていても、読み上げ機械を所持していない人がいるので、情報提供をしていく (例：認定調査時など) ⇒合理的配慮の観点から必要では？ ○ただし、上記の場合役所の職員自身が機械の情報をよくわかっていないので、勉強会を開くなど必要。 ○信頼する第三者 (ヘルパー?) が伝えていく等の転送システムを考える。</p>	<p>【課題整理済】 ○区役所の取扱い状況を確認</p> <p>・清田区では、点字送付希望者を名簿管理している。新たに希望する方がいれば登録をしていく。書類もすべてが点字になっているわけではなく、案内封筒に点字シールをはっているだけで、中身は普通の文書になっている。区役所では、すべて点字の文書を作るということまでは、時間的にも人力的にも困難な状況がある。提出期限が近づいたら電話をして随時確認。知的障がいの方にも電話連絡をして対応。</p> <p>・点字希望の名簿を別に作ってはいない区でも、個人台帳に点字希望と等と記載をして管理している。書類を送る時は、同じく点字シールを封筒にはって送っている。一般的に点字希望をしていない方に、点字シールをはって送るということはしていない。</p> <p>※区役所の部署ごとに個別的な対応はできているが、引き継ぎがされていないという場合もまれに見られるため、担当者が変わってもわかるように引き継ぎをし、担当者も確認できるようにすることが必要。</p>	<p>平成30年7月31日の運営会議にて新たに「情報保障」という課題カテゴリが設置された。</p> <p>【令和2年度】 ・第35回全体会 (令和2年12月 書面会議)</p> <p>⇒ (札幌市回答) 点字シール付き封筒希望者として事前に登録いただいている方に対しては、各区保健福祉課から郵送する際に、封筒に部署名等を記載した点字シールを貼付しております。</p> <p>【令和5年度】 ・令和6年3月にさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。基本施策3に「情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実」が示されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/keikaku/documents/syougaiplane2024_ikkatu2.pdf</p>	主：行政 副：情報保障

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
6 (H24)	精神障がいのある方の入居等に関する支援において、不動産屋で障がいをオープンにすると部屋(賃貸住宅)の契約がしづらくなる。保証会社の審査が通らない(通りにくい)。(東区6)	●精神障がいに関する正しい情報提供を行う。	【課題整理済】 障がいの住まいの課題のため、3と一緒に検討する。 ①東区地域部会でビッグの方を招いて「障がいの住まい」についての研修会を行う予定であるので、他の地区とも合同で出来ないか検討する。 ②精神障がい者のみではなく、障がいのある方の入居に関しては、福祉側からの働きかけも必要だと考えられるので、不動産・借家が安心できるようなパンフレットを作成する ③方法として、運営委員が各地区1-2名ほど住宅問題に関して興味のある人に集まってもらおうと呼びかけをして、そこでチームを作り(1)研修、(2)広報等の活動を行ってもらおう ④まずは運営会議に相談する ⇒「市営住宅の単身入居を含む住まいの問題」として課題整理を行った(25年度実施、26年度から中央区地域部会にて引き続き検討を依頼)	<p>中央区地域部会で、宅建協会作成の『一人暮らしガイドブック』の分かりやすい版が完成。</p> <p>平成30年度、ガイドブックを札幌市のホームページに掲載。市民便利帳にもガイドブックの案内を掲載。</p> <p>令和元年度、一人暮らしガイドブック周知のためのちらし作成。</p> <p>【参考】</p> <p>・「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律」(平成19年法律第112号)第51条に基づき、令和2年1月に札幌市居住支援協議会が設置された。また、居住支援相談窓口「みな住まいる札幌」が開設。 https://s-kyoju.jp/</p> <p>【令和3年度】</p> <p>・第36回全体会(令和3年6月)</p> <p>住まいに関するプロジェクトチームが活動目安の3年間を終え、プロジェクト終了の報告。終了について承認。自立支援協議会と居住支援協議会との連携については、相談支援部会に引継ぎ。「一人暮らしガイドブック」の周知については運営会議に引継ぎ、その他の残された課題についても運営会議に引き継がれることを確認。</p> <p>・協議会運営会議(令和3年7月)</p> <p>住まいプロジェクトから引継がれた居住支援協議会と相談支援専門員との連携について改めて確認。コロナ禍ということもあるため、時期をみて連携について検討することに。</p> <p>一人暮らしガイドブックの配布方法について確認。</p> <p>・相談支援部会と居住支援協議会相談窓口(みな住まいる)との情報交換会を実施(令和3年12月3日)</p> <p>・相談支援部会部会長が居住支援協議会相談窓口の勉強会に参加(令和4年2月)</p> <p>【令和4年度】</p> <p>・協議会運営会議(令和5年3月16日)</p> <p>No.41の記載と同様。</p> <p>・札幌市自立支援協議会好事例集にこの課題に関する「一人暮らしガイドブック」作成の取組について掲載された。</p> <p>https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijirusien/documents/koujireisyuu.pdf</p>	主: 住まい

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例 誰が何を困っているのか? ○○が○○ ○○という事例		○○という課題がある ○○が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、○○部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
6 (H24) つづき				【令和5年度】 ・令和6年3月さっぽろ障がい者プラン2024が策定された。基本施策1に「差別解消・権利擁護の推進・虐待防止」が示されている。 https://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/keikaku/documents/syougaiplane2024_ikkatu2.pdf 【参考】 ・障がい者の差別解消に向けた理解促進ポータルサイト https://shougai-sha-sabetukaishou.go.jp/	

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
35 (H25)	<p>〇一人暮らしの不安</p> <p>これから一人暮らしを始めようとする人たちが持つ不安に対してどのように支援をしてゆくのか。長い間、入所施設や親元で暮らしていた障がい者が、これまで経験したことのない一人暮らしを始めようとする際、少なからず不安を覚えるであろうことは想像に難くない。特にその日常生活にさまざまな支援を必要とする障がい者の場合はなおさらである。</p> <p>1か月程度の「宿泊体験プログラム」への助成制度や、家具設備があり保証人不要の短期賃貸マンションを活用したアパート生活の体験入所支援等を実施しているところもある。「地域生活の体験」に向けての支援が、障がい者のみならず、その家族の不安を軽減することに役立つと思われる。(東区18)</p>	<p>一人暮らしを始める人たちの不安を解消する仕組みについて検討する。</p>	<p>【課題整理済】</p> <p>住まいに関するプロジェクトチームで検討。及び、運営会議で検討中の身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームができたらそちらでも検討をすることにする。</p> <p>※住まいに関するプロジェクトチーム (平成29年6月22日) 運営会議から上がってきたこの課題について共有。今後プロジェクトで検討していく課題として共有する。</p>	<p>・平成30年度 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームが設置。</p> <p>【第34回自立支援協議会全体会】</p> <p>・身体障がい者・知的障がい者地域生活移行プロジェクトチームより地域生活拠点に関する提言について審議。全体会の委員全員から承認との回答があったことから、地域生活拠点に関する提言は自立支援協議会の委員の総意と判断し、自立支援協議会から札幌市に対し、地域生活拠点に関する提言書を提出することとする。</p> <p>※書面決議書提出者22名。うち、承認22名、不承認0名。</p> <p>【参考】</p> <p>・令和3年4月。障がいのある方の高齢化・重度化や「親亡き後」に備えるとともに、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制の整備を目指し、「地域生活支援拠点 (以下、「拠点」という。)」の整備について、拠点に必要とされる機能を市内の既存事業所等が分担する形で担う「面的整備型」により、札幌市における拠点が整備された。</p> <p>【令和3年度～5年度】</p> <p>・No.6の記載と同様</p>	主：住まい 掲載：地域移行
36 (H25)	<p>〇物件条件</p> <p>何らかの生活支援を必要とする障がい者の場合、物件を探す際の条件として、今まで受けていたサービスや支援を継続して受けられる地域であること、また、家族も含めて今までの人間関係を維持できる地域であること、そういう立地条件の物件が必要となる。住み慣れた地域から離れてしまうと、これまでの人間関係や支援関係が途絶えてしまい、見ず知らずの地域で孤立し、アパートに引きこもる暮らしになってしまう危険性もある。それぞれの地域で、障がい者を支援している事業所やその地域の市町村が連携して、障がい者を受け容れる賃貸物件を開拓し、その情報をプールし、物件を求める障がい者に斡旋していく仕組みが必要である。(東区19)</p>	<p>障がい者を受け入れてくれる物件を開拓し、その情報をプールし、斡旋する仕組みを検討する</p>	<p>【課題整理済】</p> <p>住まいの課題なので、住まいに関するプロジェクトチームへ情報提供、課題検討を行うことにする。</p> <p>※住まいに関するプロジェクトチーム (平成29年6月22日) 運営会議から上がってきたこの課題について共有。今後プロジェクトで検討していく課題として共有する。</p>	<p>【参考1】</p> <p>・セーフティネット法改正 (平成29年10月29日) により、住宅確保要配慮者向け賃貸住宅の登録制度等が開始。</p> <p>【大家さん、不動産仲介業者、管理会社との意見交換会】</p> <p>・平成30年度 中央区・豊平区・厚別区で実施。</p> <p>・令和元年度 北区・西区で実施。</p> <p>【参考2】</p> <p>・No.6の【参考】の記載と同様。</p> <p>【令和3年度～5年度】</p> <p>・No.6の記載と同様。</p>	主：住まい

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
37 (H25)	○情報の保障 地域の物件や不動産会社に関する情報に、障がい者やその家族が簡単にアクセスできる仕組みが必要である。たとえば、物件に関しては、住宅改修が可能かどうか、周辺環境や最寄駅のバリアフリーの状況、また、協力的な不動産会社がどこにあるか、その不動産会社へは車いすが入店できるのか、その会社の誰に相談すればいいのか、物件探しの際に車いすのまま乗車できる車両を持っている不動産会社はどこか等の情報に、障がい者や家族が簡単にアクセスできる仕組みが必要である。 特に、IT環境を持たない障がい者や、ITそのものを利用できない障がい者も多くおり、「人」を介した分かりやすい情報提供の仕組みが重要である。(東区20)	障がい者が必要とする情報に簡単にアクセスできる仕組みを検討する。	【課題整理済】6の見解と同じ	平成30年7月31日の運営会議にて新たに「情報保障」という課題カテゴリが設置された。 【参考】 ・No.6の【参考】の記載と同様。 【令和3年度～4年度】 ・No.6の記載と同様 【令和5年度】 ・No.100の記載と同様	主：住まい 副：個別 的・情報 保障
38 (H25)	○不動産会社との連携 地域生活支援に関わる事業者と不動産会社との連携が必要である。物件見学会や、交流会・意見交換会、研修会等を通して、日常的に連携体制を作っていく作業が必要である。地域生活支援の事業者たちと不動産会社がもっと有機的に連携できれば、障がい者の「住まい探し」や「自立生活」の可能性は大きく広がるはずである。(東区21)	障がい者を支援する事業所と不動産会社とが連携する仕組みを検討する	【課題整理済】6の見解と同じ	【大家さん、不動産仲介業者、管理会社との意見交換会】 ・No.36の記載と同様。 【参考】 ・No.6の【参考】の記載と同様。 【令和3年度～5年度】 ・No.6の記載と同様	主：住まい 副：個別 的
39 (H25)	○大家・管理会社の不安 大家、管理会社の不安の問題をどうするのか。障がい者と日常的に接する機会が少ないため、障がい者がどんな生活をしているのかわからないという不安が生じやすい。大家が障がい者の暮らしについてイメージできることが、大家自身の不安を取り除くことにつながる。たとえば、「暮らしの履歴書」を提示するという方法も、大家に障がい者の暮らしを具体的にイメージしてもらうためには有効な方法である。大家が「障がい者の暮らし」を具体的にイメージできるような手立てを工夫してゆく必要がある。(東区22)	大家・管理会社が障がい者に対して抱く不安を解消する仕組みを検討する。	【課題整理済】6の見解と同じ	【大家さん、不動産仲介業者、管理会社との意見交換会】 ・No.36の記載と同様。 【参考】 ・No.6の【参考】の記載と同様。 【令和3年度～5年度】 ・No.6の記載と同様	主：住まい 副：個別 的

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
40 (H25)	〇行政的課題 国の「あんしん賃貸支援事業」、市町村の「居住サポート事業」等、他にも都市部の幾つかの自治体では、家賃補助や住宅改修に関する費用補助、行政の委託機関が保証人を担う取り組み等を実施しているが、これらの取り組みは自治体毎に制度の仕組みが異なり、自治体間、地域間の格差が大きくなっている。住宅の斡旋について行政がもっと積極的に関わる必要がある。障がい者の入居に不安を持つ大家にとって、行政の後ろ盾は、障がい者との賃貸契約を結ぶ時に、とても強い安心材料になる。障がい者の権利として民間賃貸住宅への入居を要求するという方法で、障がい者の民間住宅への入居拒否を差別として禁止する法律の制定、制度の確立を目指していく必要がある。(東区23)	障がい者の権利として住宅を確保できる施策の策定を求めらる。	【課題整理済】6の見解と同じ	【参考1】 平成22年4月に、「北海道障がい者及び障がい児の権利擁護並びに障がい者及び障がい児が暮らしやすい地域づくりの推進に関する条例」(略称：北海道障がい者条例)が全面施行。 平成28年4月に「障がい者差別解消法」が施行。 セーフティネット法改正(平成29年10月29日)により、住宅確保要配慮者向け賃貸住宅の登録制度等が開始。 https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk3_000055.html 【参考2】 No.6の【参考】の記載と同様。 【令和3年度～5年度】 No.6の記載と同様	主：住まい
46 (H26)	精神障がいの女性のケース。本人の住宅を探し本人も気に入った物件があり申し込みを行った際に、親族などがいない保証人になってくれる方がいないため保証会社を利用することとなった。緊急連絡先になってくれる人もいない。そのためアパートを借りるための審査が出来ない状況が続いた。(相談15)	保証人がいない場合は保証会社を利用する際も、必ず「緊急連絡先」が必要になる。誰に依頼をする事が良いかまた相談室がその場合には緊急連絡先となる事が必要なのか?何処かでそのような事を担ってくれる社会資源など知りたい。同じように入院の際にも保証人などがいない困ることも多々あります。	【課題整理済】6の見解と同じ	【参考1】 精神科の訪問看護を行っている事業所で、住居の確保を行っているところが数箇所ある。 【参考2】 医政医発0427第2号平成30年4月27日「身元保証人等がないことのみを理由に医療機関において入院を拒否することについて」厚生労働省より通知あり。 https://anshin.pref.tokushima.jp/med/experts/docs/2018050200040/files/1.pdf 【令和3年度～5年度】 No.6の記載と同様。	主：住まい
55 (H26)	うつ病。本人の希望する物件が見つかったが、保証人、緊急連絡先になってくれる人がいなかったこともあり、なんとか緊急連絡先に不動産会社の方がなってくれ、保証会社の審査にかけたが結局転居できなかった。(相談23)	保証人や緊急連絡先がいない一般住宅への転居先が見つからない。	【課題整理済】6の見解と同じ	【参考1】 No.46の記載と同様。 【参考2】 No.46の記載と同様。 【令和3年度～5年度】 No.6の記載と同様	主：住まい

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例	<p>誰が何を困っているのか？ ○○が○○ ○○という事例</p>	<p>○○という課題がある ○○が必要</p>	<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、○○部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
96 (H28)	<p>60歳代 男性 身体障害(両下肢と左上肢に障害がある)身障者向けの市営住宅応募があり、申し込み当選。生活改善への期待し入居する。しかし部屋に設置されている手すりの位置は、本人の障害にとって逆向きで、手すりを活用することができない状態。そのために、福祉用具を活用するが、室内構造や便座やユニットバス等の設置位置により福祉用具の利用に限界があった。【相談】</p>	<p>【課題】 市営住宅のバリアフリー物件について</p> <p>【考えられる解決策】 市営住宅案内(身障向け物件) 車いす対応との情報提供ではなく、トイレや浴室の手すり位置が右麻痺用 左麻痺用で設置との情報提供が必要もしくは、手すりの位置が個々の入居者によって異なるために、入居者がある程度調整できるように入居時に手すりを設置することができるようにする。</p> <p>【同様のケース】 新築は対応してくれる。</p>	<p>【課題整理済】 自己負担ならできたと思う。市に届け出と原状回復は必要。入居時に、ニーズに合った対応してほしい。人によってニーズが全然ちがう。日生具の改修費で20万まで。障害の方はレンタルできない～30年度法改正でレンタルも可になるが詳細不明。</p> <p>そもそも市営住宅改修の仕組みが無い？新築と新築以外の差は無い方がよいと思う。今回は事前の情報提供が不十分だった。</p> <p>課題の整理は、市営住宅の身障向けに絞った方がよい</p> <p>住まいに関するプロジェクトチームで、市営住宅担当者との意見交換。</p>		主：住まい

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
116 (R5)	<p>・自傷行為、他害行為について、理解はしているつもりでも驚いてしまう。本人に適した環境をつくりたいのか不安になる。(支援者 知的)【東区】</p>	<p>■課題について 強度行動障がいのある方との関わり方により高度な専門性が必要とされ、家族や支援者も関わりに行き詰まりや疲弊を感じやすい。関わり方の困難さとともに、支援の必要性の高さに反して対応可能な事業所や支援者が少ないという課題がある。 生活介護やヘルパー事業所も見つかりにくい、グループホームという生活の場が見つからないことで、生まれ育った愛着のある札幌のまち(札幌のまちや市営地下鉄を愛してやまない方が一定数います)を離れ、見ず知らずの地方での生活を余儀なくされるケースもある。生まれ育ったまちで大人になっても引き続き暮らしていくという、一般的には当然の権利であるはずのことが叶わないという状況について、札幌市の障がいのある人たちを支える体制として重大な課題であると捉えている。</p> <p>■取り組みについて 強度行動障がいについての理解や支援方法を学ぶ機会やネットワークを拡げていくことで、今関わっている家族や支援者にとって不安を軽減できたり行動化を予防する関わり等を学んでいけることや、受け入れ可能事業所数を増やしていくことを目指すことが必要と考える。</p> <p>実際の受け入れ状況について、居住系サービス事業所に対しては相談支援部会にて調査を実施したところだが、それ以外の通所系、ヘルパー事業所については、受け入れ実態の全容は把握できていないものと思われ、同様に調査を実施する価値があるかもしれない。</p> <p>また、現に受け入れを行っている事業所もあれば、これから受け入れを検討したい事業所もといった具合に、事業所の状況に応じた働きかけや学びの場、ネットワークの構築をおこなっていくことで、受け入れ可能事業所の裾野を拡げていけると良いのではないかと。</p> <p>■東区地域部会での取り組み予定 東区地域部会においても札幌行動支援ネットワークと連携して研修会を行うとともに、各種研修情報の発信などを予定している。 東区独自での受け入れ状況調査についても是非を検討しているところ。</p>	<p>【課題整理済】 ・令和5年9月28日運営会議 課題としては、難しい内容が複雑に絡まっている。当該の先行調査が複数行われており、札幌市でも強度行動障がいに関するモデル事業の取組みがある。既存の取組みについての情報共有を運営会議で行ってから課題整理を行うこととする。</p> <p>・その後の運営会議での議論について 札幌市内で行われている行動障がい、強度行動障がいに関する取組についての情報をまとめるため、東区課題情報整理シートを作成。追加の情報がないか確認をし、整理された情報を元に運営会議の中で改めて取組みの内容、方法、役割等を検討していくこととした。 情報収集・共有については、地域部会連絡会でも行うこととした。</p> <p>・令和6年3月14日 運営会議 <運営会議での主な意見> ・令和6年2月2日に開催された地域部会連絡会で、新たな情報がシートに追記された。 ・強度行動障がいに関わる事業等については、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがりが中心となっていることが改めてわかった。 ・様々な事業などについて、現場全体にあまり周知・共有されていない状況も明らかになった。 ・この課題について、協議会単独で何か取組みを進めるといっても、おがりと情報共有や連携をして取り組んでいくことが現実的ではないかと。</p>	<p>【令和5年度】 ・第41回全体会(令和5年12月5日) 東区から課題が提出されており、運営会議で課題整理、検討していくことを報告。</p> <p>【参考】 ・令和6年度報酬改定において、強度行動障害を有する障がい者等への支援体制の充実として、 ①強度行動障害を有する者の受け入れ体制の強化 ②状態が悪化した強度行動障害を有する児者への集中的支援 ③行動支援における短時間の支援の評価等 ④重度障害者等包括支援における専門性の評価等 などを示している。</p> <p>【令和6年度】 ・第42回全体会(令和6年6月26日) 運営会議内および地域部会連絡会で課題に関連する取組を行う機関または取組事例等の情報収集を行った。専門機関による取組を中心いくつかの内容を可視化できた。今回の内容からは、協議会として具体的に取り組むものとしての情報にはいたらず、今後も各部会や専門機関の取組の情報共有を継続することになったことが報告された。</p> <p>【参考】 札幌市では、令和6年度に札幌版「強度行動障がいを有する児者への困難事例の集中的支援 試行プログラムを実施している。」</p>	

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
116 (R5) つづき			<p><運営会議としての結論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取りまとめた情報を共有、つど必要なところへつなげていく。 ・解決していない課題であることを忘れず、継続的に地域での事例を整理し積み上げていくことを行っていくなど小さな取組を増やしていく。個別ケースを区で整理して発信してもらってはどうか。協議会が解決するだけでなく、協議会がハブになって、関係機関へつないでいくことも協議会として重要な取組ではないか。 ・おがると連携し、情報の共有化は進めていく。 		

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
例	誰が何を困っているのか? 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
118 (R5)	<p>・自閉症、強度行動障がいの方。噛みつく、髪を引っ張るといった他害あり。親御さんと同居し通所やヘルパー等支援利用し生活している。親御さんとしては、30歳くらいまでにグループホーム等へ自立と考えていたが、市内で受け入れ先が見つからず本来は生まれ育った地域で長年利用している通所やヘルパーを継続し、グループホーム等で生活できればベストと考えているが、叶わない状況。(家族)</p> <p>【東区】</p>	<p>・ No. 116の記載と同様。</p>	<p>【課題整理済】</p> <p>・ No. 116の記載と同様。</p>	<p>【令和5年度以降】</p> <p>・ No. 116の記載と同様。</p>	